



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

平成30年度 第8号

平成30年10月31日

体験してわかること

校長 吉田 正行

「うわー、私たちの食べている玉ねぎは北海道からたくさん来てるんだね！」3年生が多摩ニュータウン市場に見学に行った時、思わず出た言葉です。多摩市の学習をする中で、実際に市場の見学をすることになり、3年生はとても張り切って出かけました。始めにビデオを見て市場の大まかな仕事について学びました。次に競りのしくみや競りをする時に数字を表す指のサインを教えてもらいました。その時点で子供たちの気持ちは市場に野菜を競り落としに来た店の人の気分です。その後、実際に野菜や果物が置かれている場所に行き、段ボールに書かれている産地を熱心に調べました。さらに、実際に競りの体験をすることで、お店の人が市場で安く仕入れて、自分で値段をつけて売るという仕組みを少し理解することができたようです。フォークリフトの動く音、山積されている野菜入りの段ボール、市場独特な匂いなど五感を総動員して主体的に学習を進めました。



真剣に野菜の生産地を調べる3年生

今の子供たちは、テレビ、雑誌、ゲーム、パソコンなど多くのメディアに囲まれた生活をしています。実際には体験困難なことや、身近では見ることのできないモノなどを、画像、映像や音声によって学習できる現代のメディアは、大変便利です。しかし、こうしたメディア情報に慣れてしまった私たちは、実際に自分の身体で感じるという基本的な感覚を忘れがちではないでしょうか。そこで大人が実際に体験することの大切さを理解し、その場を意図的に設定していくことが必要となります。



模擬の競り体験。指で値段を示して大興奮

脳科学者の茂木健一郎氏は「個々の体験は創造性を生むものとして非常に大切なものです。だからこそ本物に触れることが望まれる。本物に接した経験がなければ、その素晴らしさや面白さが分かりません。脳にとって無駄になる体験はありません。全てが創造性にとって必要な体験です。本物に触れ、感動する体験が多いほど、前頭葉の働きが活発になるのです。」と述べています。好奇心が旺盛で何でも吸収する時期に実体験を多く取り入れ、授業を充実させていきたいと考えています。

【生活習慣のふりかえり 10月】

□に各自のふりかえりを記入する

あいさつ へんじ
挨拶・返事

自分から気持ちよい挨拶や返事をしましょう。……………

やさしいことば
優しい言葉

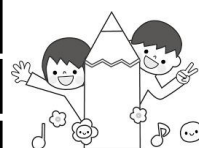
優しく心が温まる言葉づかいで話しましょう。……………

がくしゅう どくしょ
学習・読書

家庭での学習や読書の時間を決めて取り組みましょう。…

しんせつ こうどう
親切な行動

親切な行動、助け合いを毎日欠かさず実行しましょう。…



◎…よくできた ○…ときどきできた △…あまりできなかった

◆各自の一か月のふりかえりをご家庭でも話題にさせていただきようお願いたします。